
『cord number 08』、『chaos 』 データサーバー
クイックロード

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『cord number 08』、『chaos』
データサーバー

【Nコード】

N5065G

【作者名】

クイッククロッド

【あらすじ】

タイトルにある三作のデータベース!!

キャラクタープロフィール（前書き）

プロフィールは、序盤のものです。

キャラクタープロフィール

デッド

年齢：12

血液型：A型

好きな食べ物：？？？

嫌いな食べ物：人参

好きな色：全般

嫌いな色：無し

12歳の少年

その正体はスバルの幼馴染アルタイルである

死んだハズだが、訳アリで生きていたようである

神に近き幻の一族と謳われる『天神一族』の血を引き、さらにはその力を使いこなす

星千 プレアデス

年齢：60～65

血液型：O型

好きな食べ物：豆腐

嫌いな食べ物：納豆

好きな色：緑、オレンジ

嫌いな色：ピンク

幼い頃のスバルに優しく接していた老人

陽気な性格で茶目っ気が漂っている

アルタイル達に戦う術を教えたが、アルタイルがデッドと成り果てた事に自分がそうさせてしまったと深く自分を責めている

現在はスバルの師。

キラー

年齢：16

血液型：M⁴₁

好きな食べ物：ビターチョコ

嫌いな食べ物：パフェや甘いもの

好きな色：黒

嫌いな色：紫、青、ピンク

ムーの血を引く少年。真の継承者と名乗る

その力はソロを圧倒的な敗北感に包ませる程であり、スバルとアルファが二人がかりでも敵わなかった

基本、ムーの鎌、キラー・サイズで攻撃を行う

ムーの真の姿、ムー世界を復活させようと企む

星河 アルファ

年齢：11（6月で12歳を迎える）

血液型：？

好きな食べ物：全般

嫌いな食べ物：苦い物

好きな色：オレンジ、茶色

嫌いな色：白

スバルの従兄弟

陽気な性格だが、傲慢な所が目立つ

ウォーロックの従兄弟である子犬座のAM星人メラン（注：メランはこの事を知らず、自分は子犬座のFM星人だと教わって生きてきた）と電波変換してメラン・ジェットとなる。

のろのろとした事は嫌い、何事もスピーディーに行きたいという思考を持つ

響 音色

年齢：公式を参照（作者は分からないので……）

血液型：ミソラと同じ

好きな食べ物：不明

嫌いな食べ物：不明

好きな色：赤桃色

嫌いな色：黒

ミソラの母親

死んだはずだが、犯罪組織『バイオレンス』で密かに暗躍していた非常に実力は強く、響一族に代々伝わるソングモードを極めている

しかし、ソングモードの才能はミソラの方が上らしく、発動したばかりだというのに、電波の威力が強い事に音色は驚きを見せた

ソングモードを差し引けば、ミソラを一瞬で死亡させる事も可能という極めて強力な戦闘能力を持つ

何か目的があるらしく、それらしい言動もチラホラ。

レイン

年齢：12

血液型：不明

好きな食べ物：飴

嫌いな食べ物：辛い物

好きな色：水色と灰色

嫌いな色：赤（戦争で血を見たため）

ジャックと同じロイヤルフラッシュ国の出身

かつて自分の親しい者や自分を半殺しにした日国とZ国への復讐を誓って生きている

同じ境遇に合ったジャックとは正反対の道を歩んでおり、それらから、彼が『耐えられる心』を持たない弱い心の持ち主と伺える

デッドと共通点が多く、デッドもレインに自分を重ねる時が時たまある

レインは力を欲するあまり、ヘルに関する力を持つ『闇負陣^{やみふじん}』へと『バイオレンス』を抜けて入ってしまう

最終的にジャックに絶望感を与え、去っていった

ジャックに対する特別な感情を持っているところが伺える

光と暗黒 前半

今回は、謎に包まれた【暗黒】等の単語について紹介をして行きます

【【暗黒】について】

暗黒……まずは【暗黒電波】を説明しなければいけない。

皆さんもご存知の通り、カードには『炎』、『水』、『木』、『電気』……そして『無』がある。

だが……不思議ではないだろうか？

電波である『カード』に属性があるなど……

【電波の属性】

電波には属性が存在し、例えば……木の電波なら、緑電波。 緑電波のおかげで電波に自然が生まれる

他も緑電波と同じようなシステムだ。

だが……まだ疑問が残る。

何故……何故、電波に属性が存在するのか……カードに属性がある理由は『電波に属性があるから』で片付くが……何故電波に属性があるのだろうか……

【電波出現】

その疑問点を解決するのが電波出現

電波とは、木からも……何からでも気付かないが発生されている……
……ここまで言えば分かったでしょうか？

木や岩から生まれた電波は緑電波に……炎や油、動きから生まれた電波は炎電波に……水や水晶から生まれた電波は……水電波に……
電気や人間が作った製品から生まれた電波は……雷電波に……

だが、少し待つて欲しい……無とは何か……

【暗黒と光】

無とは元々存在しない……
驚く者もいるだろう

では、無とは何なのか……

まずは光と暗黒の話だ

光……先程話した属性電波の頂点に君臨する属性だ。
生命、光、希望から生まれる電波。

一方の暗黒は……光と同じく属性電波の頂点に君臨する電波
死、闇、絶望から生まれる

光と暗黒は非常に扱いにくい
その為、光と暗黒を扱えない物にとってこの二つは無属性になる

しかし……光と暗黒を操れる者にとっては……強大な力となるであ
ろう……

後半に続く

光と暗黒 後半

【暗黒の仕組み】

実は、【暗黒電波】には秘密が隠されている

【暗黒電波】を扱えない者……その者が外部から【暗黒電波】を入られる、もしくは大量に【暗黒電波】がある場所に行く……そうすると……

【暗黒汚染】を引き起こす

【暗黒汚染】

【暗黒汚染】とはその名の通り、【暗黒電波】に汚染する事だ
詳しく言えば……【暗黒化】を引き起こし、もはや人間ではなくなる

そういう事だ

しかし、【暗黒電波】が【電波核】に入らなければ【暗黒汚染】は
起こらない

だが、幾らか対抗策はある

【暗黒消去】

対抗策……それが【暗黒消去】

古来より伝わってきた方法であり、光の電波を用いて暗黒を消去する
ただし……消去された者の【暗黒汚染】が完全だった場合

その者は死亡する

【耐久】

防ぎようのない【暗黒汚染】にも耐えられる力はある
暗黒電波を扱う【黒星一族】だ。

【黒星一族】は【暗黒電波】が【電波核】に渦巻いている為、【暗黒電波】に耐えられる力を持つ。

また、【光電波】を【電波核】に宿す【流星一族】も耐えることが出来る

ただし、【電波核】の奥深くまで【暗黒電波】が入ってた場合、反発が強すぎて死ぬか、命がけで【暗黒消去】を行って【半暗黒汚染】で留まるのか、それしかない

その為、【黒星一族】の耐久度の方が強いといえる

【これらから言える事】

結論として……光と闇（暗黒）は交わらない事。油と水のような存在だ

光は暗黒を打ち消し、暗黒は光を飲み込む……

果たして……スバルは自らの【暗黒汚染】に飲み込まれるのか……
打ち消すのか……

ネシスとスバル……光と暗黒とも言える二人の行く先は何処なのか

……

ストーリーガイド 『序章』 (前書き)

未読者の方の為に、ベガサイドのストーリーをまとめてみました。

ストーリーガイド 『序章』

序章 第二の物語が、ここに幕を上げた

『主な人物』

「エイト」(ベガ)

「マッド」

「タブ」

『ストーリーガイド』

「時は二二五?年」

流星スバルの時代から約五〇年。
熾烈を極めた『ザ・ファイブ・ワールド・ウェーブバトル』は既に
終戦していた。

悪の科学者、ドリームによって開発された擬似単独電波変換が可能

な『ウェーブマン』。

彼らは『ザ・ファイブ・ワールド・ウェーブバトル』の首謀者、ギヤラクシーと内密な関係にあったドリームによって開発された為、世間からは迫害されていた。

『ウェーブマン』を世間の為に使い、世間からの迫害を避ける為に使用されたのが『ゼロラゲナ』。

『ウェーブマン』を集中管理する場所である。

「力が欲しくは無いのか？」

とある研究所。

そこでは、非人道的な実験が行われていた。

成長型ウィザードと呼ばれる、人間と同じように成長するウィザードを実験動物のように扱っていたのだ。その時代では成長型ウィザードは実現が難しく、数々の科学者達に取り掛かっても不可能とされていた技術だったのだ。

そんな成長型ウィザードが存在する理由はただ一つ、悪の科学者ドリームが作り上げたからだ。

どうやら、ドリームは成長型ウィザードを作ったのはいいものの、興味を示せなかったらしい。

ウィザードはコールドスリープ状態に陥り、四〇年の月日を経てか

ら目覚めてみれば、そこは研究所だった。

十年にも渡る培養液の中での生活。

心理的な面で、実験動物になってしまったウィザードは行動を起こせなかった。

そんな彼の頭に響いた声。

それこそが、成長型ウィザード マッドに、人類への復讐を決意させる物だった。

「一番手は、誰にするかな？」

ひたすら黒く、闇に支配された空間。

どことも知れない場所に、彼らは集まっていた。

ギャラクシーの配下かつ、テロッドという少年の部下である者達だ。話し合いの結果、テロッドは情報解析に優れたタブという少女を、『ベガ抹殺』に指定する。

「ラグナコードアクセス!!」

『ゼロラグナ』による命で『星流小学校』に潜入していたコードナンバー008、エイト。

彼は憂鬱な気分と溜息というお供を連れて、帰路に付いていた。そんな彼の前に現れたのは、服装を所々焦がした中年の男性であった。

彼の言葉によれば、自宅が何者かによって燃やされたらしい。

男性を放っておく事も出来ず、仕方なく男性の自宅へと向かったエイト。

彼がそこで見たものは、『グレイブ』という怪しげな集団だった。

「偽名であるベガと呼んだ方がいいかな？」

『グレイブ』によって危機的状況に陥ったエイトを助けたのは、緑髪の少女だった。

彼女は自らをタブと名乗り、エイトのコードネームと偽名であるベガを言い当てる。『ゼロラグナ』の掟に従い、タブを倒す為に『ゼロラグナ』のサーバーへアクセスするエイト。

それを見たタブは自らも電波変換し、戦闘体勢へと入った。

「これが「覚醒」って現象か……」

ブレインとなったタブを相手に、エイトは『ゼロラグナ』の戦法を

用いて戦う。

コチラの行動を先読みし、的確に分析を行うブレインを相手に苦戦するエイトだったが、彼の行動に変化が訪れる。

ブレインもそれを感じ取るが、解析能力が追いつかない。

結果として、エイトに電流を流し込まれ、ブレインは敗北する。

尚も立ち上がろうとするブレインの前に現れたのは、ギャラクシーの部下、ノートだった。

彼はブレインに撤退命令を出し、「オーバーコールド」によってエイトを倒す。

「甘えは無用だ」

ノートの攻撃によって気絶したエイトは、『ゼロラグナ』の隊員に回収された。

彼が運び込まれたのは、『ゼロラグナ』の病室だった。

目を覚ました彼が最初に見たのは、コードナンバー002、セカンドである。

セカンドは『ゼロラグナ』の中でも屈指の実力を誇る『五体』の一人であり、尚且つ幹部であった。

彼は呻くエイトに対して厳しい現実を突き付けると、その場を去ってしまう。

未来技術のおかげで三〇分程度で退院したエイトは、コードナンバー005、ファイブの帰還を知らされる。

Aランクの実力を誇る人物を一目見ようと、エイトは群集の中に混ざる。

そして、ファイブが放ったのは意外な一言だった。

「コードナンバー008、用がある」

ファイブに連れて来られた先は、『ゼロラグナ』のマップデータにも載っていない『秘密の場所』だった。

そこで、エイトはファイブの過去を知る事となる。

ファイブがエイトに共感を覚えたのと同様、エイトもファイブに不思議な感覚を覚えた。

「偽りの名前であるコードネームで呼び合うのは嫌だから」、という理由で、エイトとファイブは互いにベガ、ルシファーと呼ぶ合うようになる。

「圧倒的な实力を見せ付けて、勝ってやる」

少年、テロツドに次なる資格として命ぜられたコール。

彼はドリームの実験により、キャノン系統のカードを自在に操る「サテライトキャノン」といった能力を所持していた。

彼はエイトを誘き寄せる為、破壊を開始。

『ゼロラグナ』のボスはコールの暴動がエイトを呼び寄せる物だと判断し、エイトに出撃を要請。

現場に駆けつけたエイトに対し、コールは宙に浮遊したキャノンで砲撃を開始。

対するエイトは、レッドランスで応じる。

だが、実力差があまりにも大きかったせいか、エイトは敗北する。コールはエイトにトドメを刺そうとするのだが、そこに割り込む人物があった。

ギャラクシーとの戦いで死亡したハズの、流星スバルだ。

「やれるものならやってみろ。サテラポリスめ」

リキッド「K「克蘭」。

彼は、かの有名なキングの息子だった。

父親であるキングに『バイレオンス』に売り飛ばされ、ドリームの実験動物となってしまうた少年である。

コールドスリープから目覚め、五〇年もの月日が流れた世界で、彼は「単独ウェーブマン」としてサテラポリスから逃げ回っていた。ウェーブマンは『ゼロラグナ』に所属しないといけない為、『ゼロラグナ』に所属していない、いわゆる「単独ウェーブマン」は違法となってしまうのだ。

そんな「単独ウェーブマン」であるリキッドを追いかけるのは、二人のサテラポリス隊員である。

一人は暁シキ、もう一人はジェスターである。

シキの方は暁シドウの孫だ。

シキはアシッドを基とし、更なるスペック向上を果たしたウィザード、クリアを所持。

ジェスターの方はジョーカーを小型化し、スペック向上を果たしたウィザード、リセットを所持。

対するリキッドは、「紋章」系カードを用いた「ノイズドトランス」で抵抗する。

一方、エイトの方は『ゼロラグナ』に帰還。

そんな時、エイトのハンターが着信を告げた。

書かれていた内容は、「サテラポリスが襲撃を受けたので、今から迎撃に向かえ」といった物だった。

サテラポリスをたった一人で制圧する人物なのだから、Sランク相当の実力を誇っているハズなのだ。

低ランク者を使い捨てにしてもサテラポリスを守る、といったように聞こえるかもしれないが、真実はそうではない。

高ランク者を死なせては『ゼロラグナ』も不利益を被る為、死んでも構わない低ランク者を向かわせている。エイトはそう考えたのだが、真実はそうではなかった。

そう、『ゼロラグナ』のボスがエイトを『成長』させる為に用意した、『訓練』のような物だったのだ。

『人類……いや、地球自体を許しはしない!』

まずは二ホンを落とす為、サテラポリスへと侵攻したマッド。
刃向かう者全てを蹂躪し、圧倒的な実力差を見せ付ける彼は、『訓練所』に搭載された制御システムを落とす為、『訓練所』のセキュリティを破壊してみせる。

低ランク者の『ゼロラグナ』が駆けつけるが、サテラポリスの隊員にやったのと同じように蹴散らしてみせた。

圧倒的な絶望が広がる中、『訓練所』にエイトが現れる。

「凸凹トリオ結成」

孤独にマッドへ挑もうとするエイトの背後に、二人の少年が現れた。片方はコードナンバー004、もう一人は過去に演習試合でエイトと交戦し、コードネームを漏らしてしまったコードナンバー003、サードである。

彼ら三人は凸凹トリオを結成し、マッドへ挑もうとするのだが、結果は撃沈。

一瞬でエイト以外の二人が蹴散らされた。

しかし、エイトは気付いていなかった。

コードナンバー004はともかく、コードナンバー003の撃沈が演技だという事に。

リキッド・クラウンはエースとジョーカーのタッグを打ち破り、マッドの襲撃によって防御が手薄になったサテラポリス内へと侵入していた。

「単独ウェーブマン」故に、ホームレスのような生活をしている彼は、金目の物を奪おうと考えたのだ。

そんな彼は目撃する。

カプセルの中に浮遊する、赤黒い球体を。

結果として、リキッドは赤黒い球体イコール金目の物と判断し、盗難した。

「……存在を消去……己に取り込む」

急遽参戦したシキとジェスターの助けなどはあったものの、依然としてマッドの優勢は変わらなかった。

大見得切って『スーパードロータータッグ！』等といったシキだったが、ジェスターもろとも撃沈する。いっその事死んでしまおう、と決めるエイトだったが、マッドの攻撃を見て認識を改める。

これまで「生きる」事に興味を示さなかったエイトだが、目の前に差し迫る危機を認識した瞬間、遂に生存に目覚めた。

生き残る、たったそれだけの為に、強大な存在であるマッドへと挑む。

電波を膨張させる事で爆発を引き起こすボルカニックなどの戦法で傷付いたエイトだが、彼に変化が訪れる。

彼の口調がガラツと変わり、マッドをも圧倒する怒涛の攻撃が炸裂した。

『勝者が正義だ』

エイトに敗北したマッドは、自分が敗北者であり、『悪』だという事を認める。

そこに見えるのは、「勝者が正義」というこの世の悲しい本質だった。

マッドは自分と同じような外れ者のウィザードを掻き集め、保護すると決意した。

戦いが終わった次の瞬間、奇妙な声と共にエイトの内部へ黄金色の球体が入っていった。

『ゼロラグナ』に帰還したエイトは、驚愕の事実を告げられる。たった一人でSランクの敵を撃破した少年、と認識され、オマケに幹部候補となったのだ。

これが始まりだった。

熾烈を極めた戦いの、始まりだった。

ストーリーガイド 第一章

第一章 運命を揺るがす者同士が、出会う

『主な人物』

「ベガ」（エイト）

「ザクス」

「カオス」

『ストーリーガイド』

『私が、ゼロラグナ最高責任者であり、リーダーです』

ルシファーに連れて行かれた先で、『ゼロラグナ』最高権威者、ボスと出会う。

幹部候補になった事を告げられ、ベガは驚愕する。

ボスの配慮なのかどうかは分からないが、諸事情あってベガとルシファーは『ゼロラグナ』内でも内密に会話する事が可能になった。

一旦は解散したエイトのハンターに、命令が届く。

暴走とは違い、活性化したウィザードを鎮圧して来い、といった旨の内容だった。

Gランク任務　　なハズなのだが、ウィザードの数が五〇〇を超えている。

常識外れ、かつ無茶苦茶な任務内容に溜息を付くベガだが、逆らう訳にもいかない。

『世界を支配する』

数百体ものウィザードが潜む、誰も使わなくなった廃墟。そこで、金髪の少年が縛られていた。歳は八〜九程だ。

どうやら、ウィザード達はこの人質を交渉術としてサテラポリスを降伏させ、世界を支配するつもりでいるらしい。

サテラポリスを降伏させただけで世界を支配できる、という安易な考えが暴走ウィザードらしい物であった。

「面倒臭いな……はあ」

ウィザードに襲われたという街に到着したベガは、思わず溜息を漏

らした。

ウェーブロード上には見張り番のウィザードが何体もあり、下手すると襲われかねない。

見張り番がいるイコール拠点がある、と判断したベガはそれらしき場所を搜索。

手始めに路地裏を当たったのだが、手がかりは無し。

最終的に、廃墟へと向かった。

『数百の銃がお前を狙っているぜ』

廃墟の中へ踏み込んだベガは、金属音が一齐に鳴ったのを捉える。ベガが視線を巡らせた所、スポットライトに照らされ、ウィザードにソードを突き付けられている少年がいた。

それを見て、ベガは自分が『ゼロラグナ』の幹部候補だと主張。ウィザード達を掻き乱し、何とかしようと思ったのだが 逆効果となってしまうた。

ベガの言葉によって追い詰められたウィザード達は滅茶苦茶に破壊行動を行い、ベガの殺害を最重要項目とする。

生存本能に突き動かされたベガは街へと逃げ、五〇〇体ものウィザードに追いかけられるハメとなった。

「命の恩人に対して、そんな態度を取るつもりか」

ベガがウィザードから逃亡している最中、ウィザード達が次々と悲鳴を上げて倒れ込んだ。

呆然とするベガを、路地裏に居た何者かが掴む。

そのまま路地裏へと引つ張られ、ベガは顔色の悪い男性と出会った。

男性はザクスと名乗り、ベガはコードネームであるエイトではなく、クリエイトネーム偽名であるベガを名乗る。

どうやら、先程のウィザード達の悲鳴はザクスの攻撃による物だったらしいのだ。

殺める事を極端に嫌うベガは、ウィザードをデリートしたのかどうかをザクスに問う。

ザクスの答えは、デリートしていないといった物だった。

これによって、ザクスへの好感度が生まれる。

そして、ザクスが告げたのは意外な言葉だった。

何で暴走ウィザードが喋っている？

「暴走ウィザードは自然的に暴走したんじゃない。誰かが意図的に仕組んだ事だ」

ザクスが出した答えは、『意図的なウィザードの暴走』といった物だった。

通常の暴走状態ならば、思考回路がおかしくなってしまうって言語機能を潰される。

ウィザードが喋っていた、という事は、思考回路の調整があったという事なのだ。

そんな事は自発的には出来ない、と結論付けたザクスは、外部からの介入を唱える。

ザクスは犯人は守護されていると考え、見張り番の近くに犯人が居ると予想。

今すぐにでも犯人を潰そうとするのだが、ベガは人質の救出を優先する。

「ウィザード退治なんて、僕なら五分もかからないのに」

人質を解放し、ベガは溜息を付いた。

人質の名前はセイド　ハイドの従妹、ヒイドの孫だったのだ。

彼はドッペルというウィザードを所持しているのだが、自分の学校内では最強だという事も相まって、生意気な態度をベガに対して取る。

その場に現れたザクスがベガを急かし、ザクスとベガは犯人を潰す為に行動を開始する。

「訪問者二人目……幹部のクソガキも喜ぶだろうな」

見張り番を突破したベガ達の前に現れたのは、浮遊する扉だった。ザクスがそれを破壊し、露になったワープホールへ飛び込む。

先に飛び込まれてしまったベガは遅れてワープホールへ飛び込んだ。

その先に待っていたのは、見覚えのある格好をした電波人間　忘れもしない、『グレイブ』の隊員だった。

どうやら、ここは『グレイブ』の幹部が管理する拠点の一つであるらしい。

今回のウィザード暴走事件も、『グレイブ』が新兵器の開発の為に起こした物らしいのだ。

門番の隊員は「『グレイブ』には連いていかない」、等といった理由で、ベガに助言をする。

だが、そういった助言は無駄な物となってしまった。

拠点の屋根が吹き飛び、幹部と思わしき灰色の装甲を纏った少年が飛び出す。

それと対決しているのは、ザクスだった。

拠点内の隊員達をたった一人で撃破したせいか、ザクスの方はボロボロである。

対する幹部側は、無傷。

戦況は圧倒的で、それを見たベガは助太刀に入る。

幹部とベガの攻撃が相殺された所で、幹部は静かに問いた。

お前の学校はどこだ、と。

『星流小学校』の名前を聞いた幹部は、忌々しげに舌打ちした。
幹部は己をカオスと名乗り、その場を去ってしまう。

ベガは疲労からか、意識を失ってしまった。

『ここ、は……？』

目が覚めたベガが見たのは、オレンジ色基準のウィザードだった。
ザクスのよれば、黄金色の球体から現れたらしい。

ベガはすぐにマッド戦の時に自分の中に入った球体を思い浮かべた。

オレンジ色のウィザードは記憶が無かった為、ベガが彼にカシオペアと名前を付ける。

カシオペアをウィザードとし、ベガの新たな戦いが始まった。

ペルセウス星団

【ペルセウス星団について】

元々は、200年前に存在した宇宙ネットナビデューオが電波環境に適応する為に自分を電波化した存在。

最初はペルセウスという名の一つの固体だったが、素早く、迅速に宇宙を監視する為に数十体の電波体に分離した。

宇宙を監視するという本能は元がデューオだからだという

【シリウスの裏切り】

宇宙一の力を誇ったペルセウス星団のリーダーは何とあのシリウスだった。

当時のシリウスは宇宙のエースと呼ばれ、宇宙の犯罪者を次から次へと倒し、処分。あるいは改心させていった。

だが、そのペルセウス星団にある痛手が発生した。

シリウスが何者かにそそのかされ、ペルセウス星団の基地を爆破、数名を殺害した。

それからシリウスは宇宙各地を彷徨い始めた

【ペルセウス星団の影】

ペルセウス星団だが、電波体達にある【噂】をされている。彼等が言う『宇宙のバランス』という事についてだ。

その噂はこうだ。

『巨大な電波兵器で宇宙のバランスが保たれている。そしてそれを管理するのがペルセウス星団だ』

実は、この噂には証拠がある。

『宇宙神話』という電波体ならば誰でも知っている古来の神話が存在する

それによると、宇宙を作った大爆発の衝撃で最初に誕生した電波体はあまりにも強く、あまりにも強大だった。

これを電波兵器と電波体達は捉えているのだ

【次のリーダー】

次のリーダーはAM王だったが、戦死した為に『宇宙賢者 スター』を次のリーダーにした。

賢者という名前の通り、スターはAM三賢者の師である。

それ以来、スターの姿を見た者は誰もいないと言われている

チーム（前書き）

未登場キャラの名前が載っています……汗

チーム

今回は、作中に登場している組織を紹介します。
サテラポリスなどの紹介もあり

『メンバー』の部分は、組織に入っ たのが古い順です

『バイオレンス』

リーダー

・デッド

副リーダー

・照天ナオ

メンバー

- ・ブラウズ（『黒星ブラックホール』）
- ・ギャラクシー（バイオレンスに協力的でない）
- ・ドリーム（死亡）
- ・カストル、ポルックス
- ・レイブン（脱退＋未登場）
- ・クロス（脱退）
- ・アスタリスク（未登場）
- ・バック
- ・カラ
- ・オクト（戦い中、行方不明に＋未登場）
- ・キラ（死亡）
- ・レイン（脱退）

- ・キング（脱退後、メテオGの事件を起こして死亡）
- ・アステリズム（未登場）
- ・グリフ（未登場）
- ・シヨック
- ・響 音色
- ・フェンリル（未登場）
- ・スズカ
- ・ロスキューロ（一ヶ月前に参加）

他、バイオレンスに参加する為に、訓練を受けている人物もいる

『死神』

リーダー

- ・星河スバル

副リーダー

- ・クロス

メンバー

- ・テツ
- ・グエイ
- ・ジャック

『クラッシャー』

リーダー

- ・クレイ

『闇負陣』

リーダー

・ヘーラ

副リーダー

・ポイズン

メンバー

・レイン

・ダリア

その他多数

『牙』

リーダー

・シザー

『サテラポリス』

リーダー

・長官

副リーダー

・暁シドウ

メンバー

- ・ヨイリー
- ・星河スバル（脱退）
- ・響ミソラ
- ・牛島ゴン太
- ・ジャック（脱退）
- ・クインティア
- ・ジェイソン
- ・オリヒメ
- ・エンプティ
- ・千首（本名不明）
- ・雲流ウエザー

チーム（後書き）

その内、ペルセウス星団も載せます

電波核について（前書き）

遅れてすみません！！

電波核について

今回は少しばかり設定が絡まってきた電波核について説明する。

【電波核について】

電波核とは、電波変換が可能な人間の体内に存在する器官である。しかし電波で出来た器官であるため、レントゲンなどには写らない。

また、脳の一部と繋がっている為に精神が電波核に影響してくる。云わば、電波核とは電波変換を行うための器官であると同時に精神の化身でもある。

外から何かを取り込み、中に入れる事も出来る（物理的な物は不可能である）

電波核が何故存在するのか……そして電波変換が可能な人間にのみ何故存在するのかは未だ説明されていない。

電波核には神秘的な部分が多くあり、スバルとネシスがその一例である。

スバルに至っては自らの電波核に祖父がいたりなどする。

ネシスの場合は暗黒電波が勝手に外部へ流れ出し、リミッターが解除される事である。

二人の電波核は何らかの特別な力を持っているとされる。

先ほど記述したように、電波核は電波の塊である。

何故人間の内側に電波があるのかは解明されていない。

電波核の中にある電波が無くなると電波変換が解け、途端に具合が悪くなる。

最悪でも入院するほどだ。

しかし、すぐに電波は元通りになる為、長期入院となる事はない。また、生まれつき電波核を持たない者が後から電波核を持つ……という事もあるようだ。

これはどうやら、近くで電波人間が頻繁にバトルをしており、その影響で電波核が発生した……という原因のようだ。

白金ルナがその一例である。

【単体電波変換について】

特別な一族でもない限り、『単体電波変換』は出来ないはず……。しかし、並み以上の電波を持つ者は電波核が電波体の役割を果たし、『単体電波変換』を遂げる。要するに、『単独電波変換』は特殊な才能のようなもの。

ギャラクシー陣営

ギャラクシー

戦争を巻き起こし、殺人を繰り返す謎に満ちた男性。

既に何百年も生きており、分かっている範囲では200歳を超えている。

が、見た目は完全な青年である

透明な瞳を持ち、ワープホール（正体は死の池）から出現する

更には人の精神に干渉出来る、視界に入れただけで人殺し、と化け物染みている

『バイオレンス』所属時はドリームに仕えるフリをしていた

スバルとナオの事を最高傑作の一つと呼び、ソールとノートを究極傑作と称している。

名前の由来は「ギャラクシー銀河」

カストル

ギャラクシーに仕える第一側近

命令は忠実にこなし、今まで一度も失敗した事がない

ポルックス以外の者　スバル、ナオ、ソール、ノートに対しても我が兄弟と呼んでいる。

名前の由来は「双子座」の神話に登場する双子の兄、「カストル」

ポルックス

ギャラクシーに仕える第二側近

カストルとは兄弟関係にあり、ポルックスは弟に当たる
アッフリクの少年、バーニングを欺いて師匠関係を作っていた事もある。

だが、それはギャラクシーの命令で行った偽の関係であり、本当はアッフリクのサテラポリスを監視する為だった。
近頃は妙な動きを見せている

名前の由来は「双子座」の神話に登場する双子の弟、「ポルックス」

ノート

『夜の神』、『死の神』と呼ばれる少年。

ソールと二個一で行動する

ギャラクシーの部下であり、カストルと同等の立場にいる
だがギャラクシーに対する礼儀は一切無く、寧ろ嫌味などを言ってみせる事から信頼関係は無いと思われる。

ギャラクシーに隠し事があるようだが？

名前の由来は「北欧神話」に登場する「夜の神、ノート」

ソール

『朝の神』、『葬る者』と呼ばれる少年。

ノートと二個一で行動する

ポルックスと同等の立場にいる

ギャラクシーの前ではあまり口を開かない。

慎重な性格でノートの大胆な行動を止める役割。

ノート同様、ギャラクシーに隠し事があるようだが？

名前の由来は「北欧神話」に登場する「太陽の神、ソール」

シザー

Z国の一角に位置する電波国、「ゼットシグマ」を率いる冷酷な男性。

アルタイルやソロ、ジャックの人生を狂わせ、その他の人生も大勢狂わせてきた。

全てはギャラクシーの命令であり、シザーはギャラクシーを慕っている。

目的などは一切不明。

ライトポリスとサテラポリス

【ライトポリスとサテラポリスの違い】

『サテラポリス』はFBIのような存在。

アッフリクとニホン、シャーロに『サテラポリス』の拠点が存在する。

ちなみに、『cord number 08』での時代だと、ニホンの『サテラポリス』と『WAXA』は別々の建物 ってか、別の組織になってます。

ある程度の連携は取りますが、必要以上の連携は取りません。

『ライトポリス』は世界最大の警察機関。

普通の警察の仕事から、軍事、スパイ活動まで行います。

アメロッパのみにしか基点を置いていない『ライトポリス』ですが、規模は世界最大。

どの仕事もこなす万能な『ライトポリス』。

警察よりも強化された『サテラポリス』。

これが違いですね。

各キャラクターの能力（前書き）

特異的な能力を持つキャラクターとその能力を、まとめました。

各キャラクターの能力

『World/Wave/Battle』のキャラクター。

・【流星 スバル】

【スターPGM】

サテライト管理者から譲り受けた、高性能ノイズ対抗PGM。作成者はウォーロックの父親であり、元AM王でもあるプトレマイオス。

ジョーカーとエース両方の力を併せ持つが、『World/Wave/Battle』最終話で引き起こされた爆発により、壊れてしまう。

【電波破壊化】

【電波破壊】と呼ばれる、電波生命体の一人、【デス・ドライ】の力を借りる事で起こる変身。

最初の内は【デス・ドライ】の気まぐれでスバルが暴走するのみだったが、【悪魔】の一件以来、ある程度の信頼関係をスバルと築けた為、スバルの意思によって変身する事が可能に。

スバルが気絶した場合、【デス・ドライ】が強制的にこの変身を發動し、スバルの体を守る事も。

『World/Wave/Battle』の最終話で引き起こされた爆発により、【デス・ドライ】がスバルの電波核から離れてしまった為、この変身は使えない。

【究極電波変換】

【デンパー族】に伝わる、電波変換の強化形態。

【流星一族】がこの電波変換に最も適している為、【流星一族】の者は比較的簡単に究極電波変換を身に付ける事が出来る。

（別に流星一族でなくとも、努力すれば究極電波変換は手に入れられる。ただし、【デンパー族】に認められた者でないといけない）

『cord number 08』時代のスバルはこれの力を限界まで引き出し、膨大な力を得ている。

体中に溢れる高压電波が、体内に収まる事が出来ず、羽根となっている事からもその強大さを知れる。

スバルは【流星一族】な為、数日程度の訓練でこれを手に入れた。

ちなみに、この前段階としては【第二電波変換】が存在する。

本来なら存在しないはずの、【第三電波変換】はスバルとアルタイルが独自に生み出している。

【暗黒化】

【暗黒電波】により、【半暗黒汚染】になった為、スバルが行使出るようになった変身。

ネシスが扱う【暗黒電波変換】の劣化版のようなモノ。

・【黒星 ネシス】

【暗黒電波変換】

暗黒電波を用い、電波変換する事で【究極電波変換】とも対抗できる力を手に入れる。

【黒星一族】がこの電波変換に最も適している。

【暗黒暴発】

簡単にいつてしまえば、リミッター解除。

【電波核】の内部で爆発を引き起こした【暗黒電波】により、ネシスの制御が効かなくなるモノである。

・【響 ミソラ】

【ソングモード】

【音一族】に伝わる、音を自在に操る事で己の実力を上げる能力。

【音一族】の流派である、【響家】と【音色家】の娘であるミソラは、母親の尽力によってこれを制御する事に成功。

・【ソロ】

【ソリチュード・モード】

【ムー】の伝承に伝わる、孤高の力を引き出した姿。

【ソリチュード・オーバー】

同じ【ムー】の末裔であり、友であったキラーが死んだ事で引き出された能力。

【ソリチュード・モード】の力が限界まで引き出され、暴走する。

・【星光 アルタイル】

【神晃電波変換】

【流星一族】や【黒星一族】と同じく、【銀河一族】の直属である

【天神一族】に伝わる、最強の電波変換。

【究極電波変換】や【暗黒電波変換】を遥かに凌駕する力を持つ。

・【黒星 ブラックホール】

【マター】

宇宙に存在する物質、マターを操る。

『c o r d n u m b e r 0 8』のキャラクター

・【ベガ】

【脳覚醒】

脳の力が引き出され、驚異的な力を操る。
テロッドよりも強力であり、ギャラクシーですらその強力ぶりに驚いている。

【禁止^イカード】

メガクラスまで使用許可が下りている。

【電波融合】

カシオペアと融合する事によって、膨大なエネルギーを操る。

・【リキッド・クラウン】

【ノイズドカード】

父親であるキング・クラウンが開発した、ノイズを込めたカード。
ウェーブカードの代わりとして、リキッドはこれを扱う。

実はリキッドの特異体質のおかげでこれを操っていたりもする。
理由は今後明らかに。

【ノイズトランス】

『の紋章』と名付けられたノイズドカードを転送し、姿と能力を
変更する。

プルテミー曰く、スバルやリキッドは『星の素質』がある為、変身
能力を持つらしい。

【ノイズオーバー】

メテオGが砕け、地球に高濃度のノイズが降り注いだ。
そのノイズは今も地上を漂っており、力を強めている。

そのメテオGのノイズを吸い込み、力を爆発させる事で暴走を引き起こす。

実はリキッドのノイズ包容力が限界を超えても起きる現象。
その場合は、上記の物よりも凄まじい状況となる。

・【テロッド】

【脳覚醒】

ベガ同様、脳の覚醒を引き起こす。
ちなみに、この能力は『アレンジ』によって脳の容量をかなり引き出せるようになった為に行える。

テロッドだけがこれを扱える理由は（ベガとは理論が違ふ覚醒法なので、実質テロッドしか出来ない）、『アレンジ』の実験に耐えたのがテロッドしかいなかったからである。

【アレンジ】

テロッドの脳に入れられた様々なデータにより、歴史上の技を扱える。

【クリムゾン・ドラゴン】が扱った技や、【ラ・ムー】が扱った技。それら全てを、自在に操れる。

ギャラクシーが『死の池』に様々な者のデータを入れており、そのデータをテロッドの脳に入れたので、忠実に技を再現出来る。

・【マッド】

【高圧破壊電波】

体内に宿る電波を、そのまま放つ事によって起きる能力。電波が電波を破壊するという、異常な事態を引き起こす。

・【タブ】

【ブレイン・サテラ】

高性能解析を行う己のバイザーを生かし、有利な戦略を弾き出す能力。

・【コール】

【サテライトキャノン】

複数のキャノンを同時に扱える能力。

空中にキャノンを浮かべる事も可能。

・【アリサII ジェネラル】

【光の力】
ライト・パワー

【光電波】を【クイーン】の科学力と、己の電波核で無理やり操る能力。

アリサしかこの能力を扱えない。

その理由は、どうやら【電波核】の構造にあるようだ。

『chaos』のキャラクター。

・【混天 カオス】

【ウィルス・パニック】

己がジャミングーとなっている為、ウィルス特有の破壊技術で相手の電波を破壊する。

【禁止カード】

法を重視しないカオスは、平気で禁止カードを扱う。
ある意味凶悪な能力（？）

【闇の力】
ダーク・パワー

【暗黒電波】を利用した攻撃を行える。

・【ガーゴイル】

【感情移行】

感情の移り変わりがそのまま、実力に反映される。

・【心野 幻真】

【精神動作】

精神による攻撃を仕掛ける。

『m i c h a e l』のキャラクター

・【オペラ】

【電波操作】

能力というよりは、実力と名付けた方がしっくりくる。

オペラ自身の電波が膨大すぎるため、それを扱うオペラは電波の操作に手馴れている。

それが度を過ぎた為、自分の体に触れた電波を操れる。

非常に凶悪な能力で、相手に触れるだけで電波核を崩壊させ、瞬殺する事も可能。

だが、『触れていないといけない』、という致命的な弱点がある。

更に、電波の操作法の際には自らの周波数を使う為、周波数を計算され、乱されればその時点でこの能力は通用しない。

ほとんどの場合は空気中の電波を操作し、防御が攻撃かに使われる。

【身体強化】

電波核を使い、身体の強化を促す。

完全覚醒したテロッドの動きに追いつくなど、驚異的な身体能力を手に入れる事が出来る。

【神力^{ゴッド}】

どういった理屈かは分からないが、『異次元』の力を引き出す。
ギャラクシーによれば、数%にも満たない力であるらしい。

エンジェル
【天力】

空気中のありとあらゆる物質を圧縮、相手へと放つ。
ギャラクシーを「理解不能」と言わせた力。

Q & a m p ; A

Q・『異次元』って何？

A・ベガ達のいる世界に最も近い世界。

世界、というよりも『高次元』といった方が正しい。

明確な意味では、『世界』でも『次元』でも無い。

全てにおいて現存の世界を上回っている。

ちなみに、ベガ達の世界はかなり特殊で、『冥界』と呼ばれる世界と常時繋がっている。

この『冥界』は『異次元』と同じでかなり特殊な方法を使わないと入れないようになっている。

Q・前作の最終話で、何故ギャラクシーはスバルを必要としたのか。

A・鍵を起動させる為に必要なのが、『力』と『銀河一族の遺伝子』だったから。

スバルとナオで力比べし、結果としてスバルの実力が上回ったのでギャラクシーはスバルを選択。

ちなみに、ギャラクシーとスバル二人分の力でようやく鍵が起動する。

Q・鍵以外にも『異次元』に行く方法はあるのか

A・無いです。ただし、『予備の鍵』なら行けます。

『予備の鍵』は単純な鍵ではなく、もっと別の存在です。
既に本編に登場しています。

Q・宇宙電波って名前が出てるけど、あれって何？

A・高エネルギー。本編で後々明らかになる。

Q・デス・ドライってどうなった？

A・スバルが死んだ事により、封印が解けました。
ついでに、スバルの肉体からも分離されました。

Q・マターって結局何？

A・宇宙に存在する、電波以外の『力』
本編で後々明らかになっていく。

Q・悪魔って何？

A・後々本編で明らかになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5065g/>

『cord number 08』、『chaos 』 データサーバー

2010年10月10日03時18分発行